

(7) 近 畿



近畿地域では、景気は緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_は上方に変更、 _は下方に変更)。

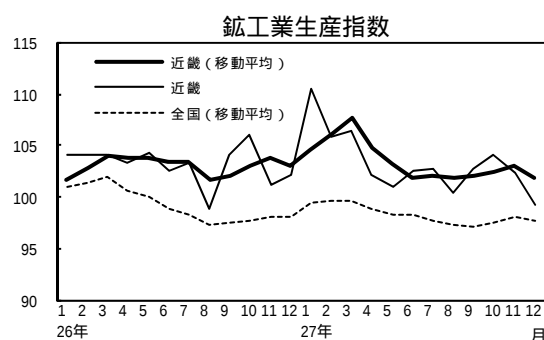
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 27 年 11 月)	今回 (平成 28 年 2 月)	
住宅建設	おおむね横ばい	増加	↑

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は、おおむね横ばいとなっている。

10～12 月期は、はん用・生産用・業務用機械は、蒸気タービン部品等が減少したことにより減少となった。化学は、パラキシレン等が減少したことにより減少となった。電気機械は、セパレート形エアコン等が増加したことにより増加となった。輸送機械は、自動車部品等が増加したことにより増加となった。食料品・たばこは、酒類等が減少したことにより減少となった。



(備考) 1. 22 年=100、季節調整値。
2. 全国及び近畿の太線は後方 3 か月移動平均。

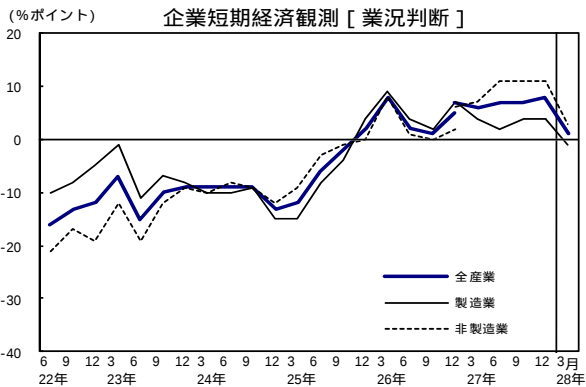
域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7～9 月期	10～12 月期	10 月	11 月	12 月
はん用・生産用・業務用機械	17.4	▲3.4	▲0.1	8.1	▲4.9	▲5.5
化学	16.8	5.2	▲1.2	▲2.1	▲1.8	▲3.2
電気機械	9.0	6.2	3.7	▲7.3	7.9	▲4.9
輸送機械	8.4	▲2.2	0.8	1.0	7.9	▲9.1
食料品・たばこ	6.7	3.5	▲0.8	▲0.5	▲0.7	▲0.8
鉱工業	100.0	0.1	▲0.1	1.3	▲1.7	▲3.0

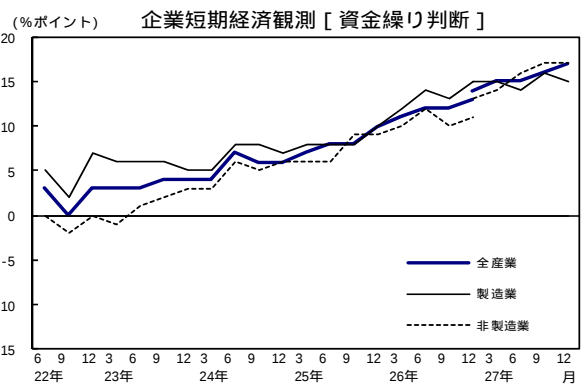
(備考) 地域における付加価値ウェイトの高い 5 業種。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

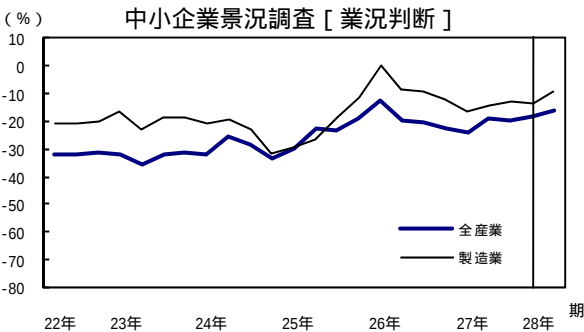
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考) 「良い」 - 「悪い」回答者数構成比。28年3月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。



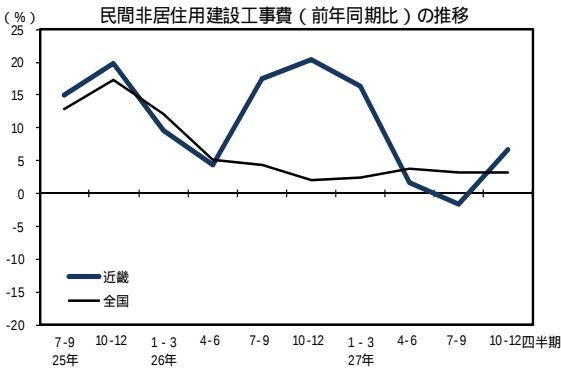
(備考) 「楽である」 - 「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。



(備考) 「好転」 - 「悪化」回答者数構成比。28年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (1 月調査結果) [企業動向関連 (現状)]
「輸出関連企業が多いため、為替が円高に進むようであれば状況は悪化するが、120 円前後での推移となれば変わらない (その他非製造業 [機械器具卸]) 」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は増加している。



企業短期経済観測調査 [設備投資 (12 月調査)]		
(前年度比、%)		
	26年度実績	27年度計画
全産業	7.5	2.3 (▲1.1)
製造業	2.8	16.8 (▲2.2)
非製造業	10.3	▲5.8 (▲0.2)

(備考) () は前回 (9 月) 調査比修正率。

(7) 近畿

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数（RDEI（消費））

10月は前月比0.8%減、11月は同1.8%減、12月は同0.1%増となった。

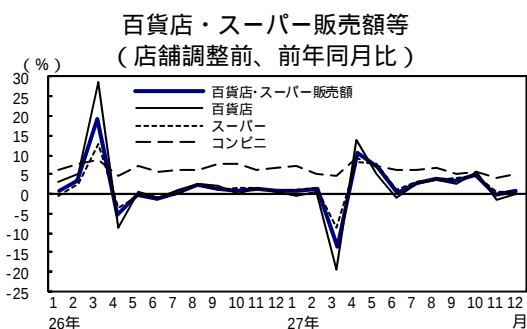
百貨店・スーパー販売額

百貨店は、引き続き富裕層や、訪日外国人観光客に対する販売が好調であった。10月は、全般的に天候に恵まれたことから前年を上回った。11月は、暖冬の影響により冬物衣料品が不調となり前年を下回った。12月は、暖冬の影響が中ごろまで続いたものの、クリスマス・年末商戦等が好調に推移し前年を上回った。

スーパーは、暖冬の影響により「衣料品」等が減少したものの、「飲食料品」が堅調に推移したこともあり、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査（1月調査結果）〔家計動向関連（現状）〕

近畿地域の家計動向関連DIは、46.8となり前月より1.1ポイント上昇した。「暖冬により防寒商材の売行きが全国的に厳しい時期が続いたが、1月に入って気温が低下したことで、ブーツや手袋、ネックウェアといった商材にようやく動きが出始めている（百貨店）」など、「やや良くなっている」とする回答が増加した。

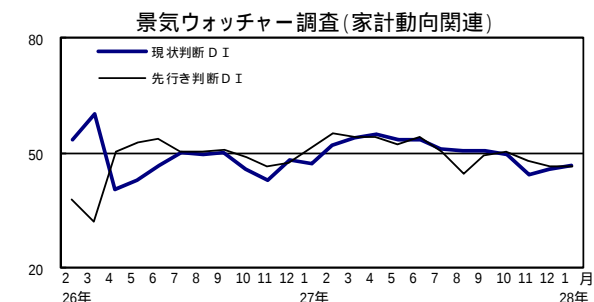
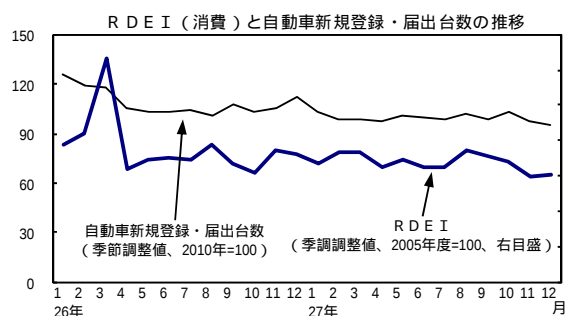


	27年10-12月	27年10月	11月	12月
RDEI(消費*1)	▲1.7	▲0.8	▲1.8	0.1
百貨店・スーパー(*2)	1.6	5.0	▲0.3	0.6
百貨店(*2)	1.1	5.7	▲1.7	0.2
スーパー(*2)	1.8	4.5	0.6	0.6
コンビニ(*2)	5.2	5.9	4.4	5.4
乗用車(*3)	▲7.5	▲2.5	▲5.0	▲14.6
(季節調整値)(*3)	▲1.0	4.7	▲5.1	▲2.4

(備考) 1. 季節調整前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

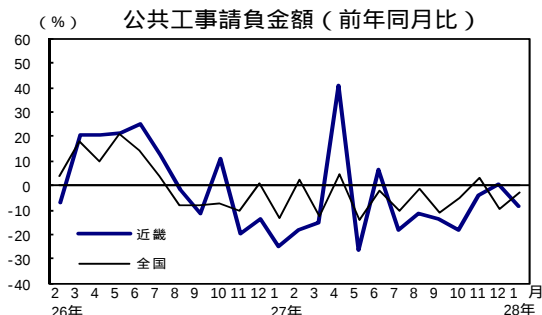
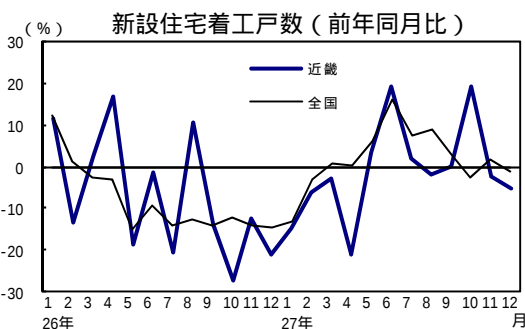
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は増加している。

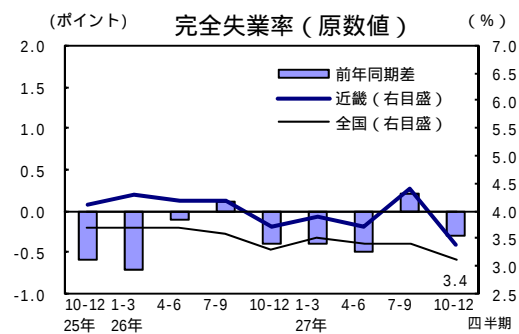
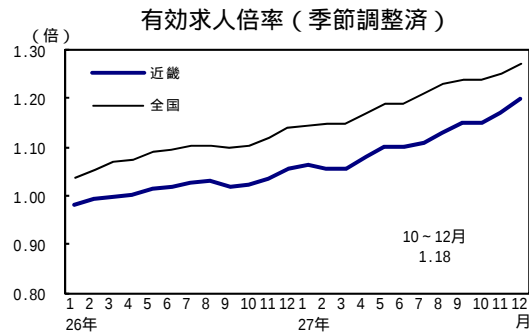
持家、分譲が前年を上回ったことから、増加している。

(3) 公共投資は27年度累計でみると前年度を下回っている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は着実に改善している。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。

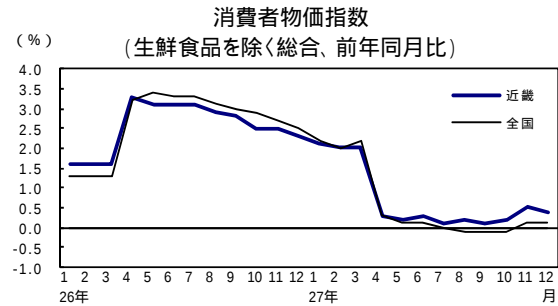


景気ウォッチャー調査（1月調査結果）[雇用関連（現状）]
「企業による採用の動きは衰えていない。しかし、求職者数が少ないので、企業は慢性的に人手不足の状態に陥っている（人材派遣会社）。」などの回答がみられた。

- (2) 企業倒産は、件数、負債総額とも減少している。
(3) 消費者物価指数は、前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	27年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	28年1月
倒産件数	558	591	541	531	162
(前年比)	▲8.8	▲11.8	▲13.3	▲9.1	1.9
負債総額	842	661	503	479	278
(前年比)	29.1	▲36.2	▲40.5	▲33.0	121.4



- 景気ウォッチャー調査（1月調査結果）[合計（特徴的な判断理由）]
<現状>
・取引先の企業の決算内容が良いので、3月末までの決算内の改修工事が急増している。ありがたい話ではあるが、技能労務者の不足に苦慮している（建設業）。
<先行き>
・中国の景気減速による直接の影響はないが、解体車両の価格、いわゆる鉄の価格はかなり下がっている。今後好転するかどうかは不透明であるが、いずれにしても、すぐには当社の取引に波及しない（乗用車販売店）。

